

舌痛に苦しみつゝも、作句を怠らず、讀書、執筆表へず。

九月三十一日、たかし、草田男、立子、汀女、友次郎、杞陽、藤江、正一郎と共に九羊會のメモバーとなり、第一回開催、療中より投句する。この句會を十一月二日、池上曙樓に開催珍しく出席した。

九月十六日、出發、新潟へ、病軀を新潟醫大にて受診したためであった。中田みづほ、高野素十が迎へた。十九日歸京した。

昭和十六年（四十五歳）

「ホトトギス」へ十四稿、「俳句研究」五稿、「玉藻」「辨語」その他に數稿を發表した。死の前々日まで「ホトトギス」虚子選の雜誌投句を怠らなかつた。

六月三十日、第三句集「白痴」が甲鳥書林より發刊された。昭和十四年より昭和十六年中の作を收めた。この句集の題には鈴木抱風子が當つた。

七月十七日、午後零時五分桐里町の自宅に於て永眠した。享年満四十四歳十一月。

戒名は「青露院茅舍居士」兄、龍子が諡つた。伊豆

修善寺、川端家墓域に葬る。

歿後

昭和二十一年九月、養徳社より「定本茅舍句集刊行」。

昭和三十三年三月、角川書店より「川端茅舍句集」刊行。

四月、筑摩書房版「現代日本文學全集・現代俳句集」に俳句五百二十句入集。

九月、角川書店「現代日本文學全集・川端茅舍集」刊行。

（深川正一郎編）

現代俳句文學全集

（全十三卷）

川端茅舍集



昭和三十三年九月二十日 印刷
昭和三十三年九月三十日 發行

定價三六〇圓
（地方價三七〇圓）

現代俳句文學全集 川端茅舍集

著者 川端茅舍

發行者 角川源義

印刷者 中内佐光

發行所 角川書店

東京都千代田區富士見町二ノ七
振替東京一九五二〇八番
電話九段(33)〇二一一〇二五番

（落丁・郵丁本はお取替へ致します）